



インスピレーションになろう

ガバナー月信

2019年6月号 Vol.12



Contents



襷を繋ぐ	1	ロータリーショーケース 2560	10
十日町北 RC 創立 50 周年記念式典	2	新入会員紹介・訃報・今後の予定	11
大谷年度 地区研修・協議会	3	出席報告	12
インターアクト国際交流事業	5	コーディネーターニュース	13
米山記念奨学生オリエンテーション・歓迎会	7	ハイライトよねやま	14



襷を繋ぐ

国際ロータリー第 2560 地区 2018-19 年度
地区幹事 関川 博 (三條 R C)

当地区は、新潟ロータリークラブが国際ロータリー第 70 地区、森村市左衛門ガバナーのもと、誕生したところから始まりました。会員数やクラブ数の増加で地区はやがて新潟県全域とする国際ロータリー第 2560 地区と変遷を遂げて当年度で 82 名のガバナーがその襷を繋いで来ました。創立当初の定款や細則も時代や世情とともに変化を遂げてきた事がロータリーという組織を拡大させ、継続してきた大きな理由だと思います。

そして、何より重要なことはポールハリスが提唱したロータリー精神は多くの人に共感を与え、「奉仕の精神」は、やがて「世界に良いことをしよう」へ発展を遂げた事が継続する原動力になっているのでしょうか。ロータリアン 1 人 1 人が奉仕活動を行い、クラブとして更に大きな奉仕活動となり、地域社会に良い影響を及ぼす。

川瀬年度では、奉仕プロジェクト委員会を構築し「認知症に優しい社会」をテーマに、地域社会に良いことをロータリアンが先頭に立ち、活動することを目標といたしました。残念ながら、その活動を見られることなく病氣療養となりましたがその意向はしっかり地区全体に広がり、公式訪問先のロータリアンの右腕には「オレンジリング」が輝いておりました。

ガバナー講和は IM で行うこととなり、各分区ガバナー補佐およびクラブ会長にはご協力いただき感謝申し上げます。また、講和を担当されたパストガバナー各位には、頭が下がる思いです。ガバナー不在の公式訪問も全行程を恙無く終了出来たのもガバナー補佐各位のご尽力と温かく受け入れていただいた 56 クラブ会長幹事そして全ロータリアンの善意だと思います。

当年度は様々な事がありましたが、その「想い」の籠ったガバナーの襷は新保副ガバナーと 2,100 人のロータリアンの両手で、まもなく大谷年度に繋がれます。当年度の地区幹事をさせていただいたことに感謝し、皆様には心からお礼を申し上げます。

最後に、ガバナー代行の重責を担っていただいた新保清久副ガバナーの英断には敬意を表す言葉が見つかりません。切れそうな襷を、温かく両手で受け取られたお姿を一生忘れません。

■十日町北 RC 創立 50 周年記念式典

十日町北RC 会長 田邊 誠

令和元年(2019年)5月18日(土)に、ラポート十日町に於いて、十日町北ロータリークラブ創立50周年記念式典並びに祝賀会を開催いたしました。

若葉に風光る日に、第2560地区新保副ガバナー、十日町市長をはじめ多数のご来賓の方々をお迎えし当クラブの会員、夫人を含め、総勢191名の参加を頂き、盛大に開催出来ました。



記念事業報告といたしまして、児童センター建設に際し、この一帯に桜の杜計画をすすめるもので、日本さくらの会承認、黄桜会へのプロジェクトの財政支援を行い、10月19日植樹祭を挙行政いたします。

記念講演では、東京十日町会会長の春日寛氏による「首都圏から十日町市、新潟県に期待するもの」というテーマで講演いただき、新潟県に対する熱い思い、発展策等お話いただきました。

祝賀会では、花柳社中の祝の舞で始まり、佐々木パストガバナーの乾杯の後、アトラクションが行われ、大いに盛り上がりました。ご列席いただきました皆様のおかげですばらしい記念式典となりました。心より感謝申し上げます。



■大谷年度 地区研修・協議会

地区研修・協議会の御礼

地区研修・協議会実行委員長
佐藤 憲二（高田RC）

令和元年を迎えた記念すべき年、2019年5月11日（土）上越市において国際ロータリー第2560地区 2019-20年度地区研修・協議会が、新保副ガバナー/地区研修リーダー、大谷ガバナーエレクトの指揮のもとデュオ・セレッソと高陽荘の2会場で開催されました。参加者総勢610名の皆様から御参加いただき誠にありがとうございました。新保副ガバナーはじめ地区役員の皆様から御出席賜り心から御礼申し上げます。



全体会議においては、実行委員長の開会宣言に始まり新保副ガバナーより本協議会での目的について、大谷ガバナーエレクトより国際協議会報告・次年度地区運営方針についてお話をいただきました。続いて、柳生好春（野々市RC）様から「いま、なぜ公共イメージと認知度の向上か」と題してご講演をいただき参加者の皆様は大変感銘されておられました。

午後は、第1セッションから第5セッションに分かれ活気あふれる会議が行われていたのがとても印象的でした。その後、全体会議において各セッションリーダーからの発表と新保地区研修リーダーからの講評をいただき無事に終了する事ができました。その後は、ロータリー

の大切な一つでもあります懇親会に移り、出来立ての料理と地酒でお互いに友情を深めることが出来ました。

本地区研修協議会の準備・運営において第7分区の各ロータリークラブ（直江津・新井・糸魚川・高田東・糸魚川中央・頸北・越後春日山RC）の皆様には大変御支援・御協力を頂き心から御礼申し上げます。





■ インターアクト国際交流事業

インターアクト委員会

委員長 水戸部 修一（新潟中央RC）



令和元年5月10日（金）～11日（土）の2日間、今年度のホスト校である新潟県立新潟向陽高等学校インターアクトクラブの皆さんを中心に台湾受入事業が行われました。

この事業は3月の日本から台湾への訪問の後、今度は台湾から日本へ来訪していただく形で毎年行われており今年で27年を迎えています。

歓迎式典からスタートを切る2日間なのですが、今年はその前に一緒にお昼の食

事をするところから始め、お迎えに来てくださっているホストファミリーの皆さんと共に向かい合わせでお弁当を召し上がっていただきました。日の丸ごはん、サバの塩焼き、筑前煮、マカロニサラダ etc・・・THE 日本のお弁当です。

歓迎式典は向陽高校の会議室にて行い、セレモニーのなかでは合唱部のみなさんと演劇部のみなさんがアトラクションを披露してくださるなど、手作り感たっぷりの設営となりました。和やかな雰囲気の中で学校見学も行われ、日本の学校の様子を体感していただけたものと思います。

この国際交流事業のメインイベントはホームステイです。今年は台湾を訪問した方には台湾側来訪時のホームステイ受入れを必須とさせていただきます。これまでホスト校とホストクラブを中心に受け入れを行っていただきましたが、訪問数と来訪数とのアンバランスにより本年度も受入れ対応が困難となることが予想されたためです。遠方からのお迎えなどにご協力をいただきながら実施させていただきましたが、本当の意味での相互訪問が実現することからインターアクト当事者同士の親密度が増す状況ができたと考えています。



さて、この事業を通じて感じることは日本の高校生が世界とのコミュニケーションを意識しなければならないということです。台湾の高校生のスピーチが日本語で行われることを目の当たりにするわけですが、彼我の差は大きいと思わざるを得ません。この点においてロータリークラブが果たす役割は大きなものがあり、28年目に入ろうとする伝統ある事業を継続していく意味はここにあるのではないかと感じます。

トラブルなく本年度の事業を終えることが出来たのは関係各位のご協力のおかげです。深く感謝申し上げますとともに、国際交流事業のご報告とさせていただきます。ありがとうございました。



■米山記念奨学生オリエンテーション・歓迎会

奨学生選考委員会

委員長 宮嶋 正明（新発田RC）

日頃は米山記念奨学事業にご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。

米山記念奨学委員会では4月20日（土）に2019学年度（2019年4月～2020年3月）の「米山記念奨学生オリエンテーション・歓迎会」をANAクラウンプラザホテル新潟にて開催しました。オリエンテーションには新規奨学生20名とそのカウンセラーの皆様、大学の指導教員の皆様と新保副ガバナーはじめ地区役員が出席し、歓迎会には2018学年からの継続奨学生とそのカウンセラーの皆様、そして新潟学友会の皆様にもご出席を頂戴し、総勢91名のご参加を頂いて執り行いました。

オリエンテーションでは、米山記念奨学生として知っておくべきロータリーと、ロータリー米山記念奨学会の歴史と概要を学んでいただき、その後に米山記念奨学生に求められる姿と、奨学生の義務についてオリエンテーションを行いました。そして奨学生全員から、義務をしっかりと履行する約束を取り交わす「確約書」に、カウンセラーと指導教官が見守る中でサインをして提出いただきました。この「確約書」へのサインの手続きを終えて、晴れて正式な米山記念奨学生となります。



米山記念奨学生の義務の柱は、①毎月1回以上世話クラブ例会に出席する。②世話クラブでは卓話を行う。③世話クラブや地区の活動に参加し、ロータリアンとの交流を通して相互理解を深める努力をする。の3つです。国内最大級の外国人留学生への奨学事業であるロータリー米山記念奨学制度は「交流する奨学金」であり、奨学生にはロータリーの活動と精神を理解してもらい、将来は母国と日本の架け橋となり、世界平和の創造と維持に貢献できる人物に成長することが期待されています。

当地区の2019学年度の米山記念奨学生は、新規・継続を合わせて12の国と地域からの29名でスタートしました。世話クラブ、カウンセラーの皆様にはお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。また世話クラブとなっていないクラブでも、お近くのクラブ所属の奨学生に卓話のお声がけなど頂いて、奨学生と交流いただくと有難いです。

2018-2019年度の当委員会の事業はこのオリエンテーション・懇親会で全ての事業を終了し、次の年度に引き継ぎます。2019-2020年度も米山記念奨学委員会はカウンセラーや世話クラブの皆さまと共に奨学生の育成を進め、併せて寄付増進をお願いして参ります。これからも皆さまからの米山へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。



【 付録：米山まめ知識 】

1956年10月7日仙台市で開かれた第60区（東京以北の東日本全域）年次大会で、「米山奨学資金に関する件」と題する決議がなされました（決議文は後記 #1）。続いて翌週に横浜市で開かれた第62区（神奈川～岐阜・三重）の年次大会でも同様の決議がなされました。これにより米山記念奨学事業は全ロータリークラブ参加の多地区合同の事業となり、財団法

人格取得へ準備を進めます。しかし財団法人の運営が基本財産の範囲を大きく超えて、年々の寄付金に依存している点で、「安定財源がない」として所轄官庁である文部省（当時）との協議は難航しました。1967年5月22日付文部大臣宛て文書には、米山記念奨学事業が全国ロータリークラブの合同事業として推進されており、財団法人の認可後も全国的寄付は継承され継続すべく確信する。と説いています。このような経過を経て1967年7月1日付で財団法人の設立許可が下りました。（参考文献：ロータリー米山記念奨学会 50年のあゆみ）

1967年7月1日付にて田 誠理事長（当時）から全国のロータリークラブ会長宛に、文部省認可の財団法人になったことの報告と、併せて永続的に普通寄付の補償を求められたことを説明し、申込書への署名・捺印をお願いしました。（出典：（公財）ロータリー米山記念奨学会 総務・法人ご担当者メモより）

当地区の米山記念奨学委員会も前述の歴史や背景を踏まえて、地区内のクラブ・ロータリアンの皆様に寄付のお願いを申し上げます。

#1 … 議決文

「(前略) このような企画は貴いものであり、かつロータリーの国際奉仕として最もふさわしい企てであつて、その連続性が望ましい。なお、このような企画を継続するには、単一クラブでは負担が重すぎ、又単一クラブに任しておくには余りに宏大なるものであるから、60区における全クラブは米山奨学資金制度を一層広範囲のものとし、その制度の確立を期し、その責任の一端を負担する意志を表示している。よって本大会は、米山奨学資金を財団法人として、全国的な組織となすべきことをここに決議する」(1956-57年度第60区年次大会報告より)



ロータリーショーケース 2560

■東京電力柏崎刈羽原子力発電所見学

三条北 RC 職業奉仕委員会 羽賀 一真

三条北 RC では、2018 年 11 月 20 日（火）に、移動例会で、東京電力柏崎刈羽原子力発電所へ見学に行っていました。

◆三条北 RC 職業奉仕委員会より

原発には賛成であっても見学はしていただきたいと思ひますし、反対であっても見てから反対していただこうと思ひます。こういう趣旨で今回の見学を計画いたしましたので、是非目を皿にしてつぶさに見学し、率直なご意見を東京電力様におっしゃっていただけたらと思ひます。

◆バス車中、東京電力様より

11月1日のケーブル火災発生の経緯と調査、今後の対応についての説明がなされました。又、総合訓練に対して規制庁からC評定を受けていることについての説明と、改善策等も話されました。

◆質疑応答では

見学終了後のシアターホールや帰りのバス内では、大変白熱した質疑応答となりました。

東京電力様「福島原発事故発生を心よりお詫びいたします。我々はその反省を踏まえ最大限の事故再発防止に努めております。皆様よりお寄せいただいたアンケートを拝見いたしました。再生可能エネルギーはもちろん開発に取り組んでいく必要がありますが、まだまだそれだけでは電力の安定供給には至っておらず、世界的に脱原発に向かっているとまでは言えないのではないかと思います。例えばフランス国内では高速増殖炉でのミスは最先端技術である以上つきものであると認識されていますが、日本国内ではたった1度のナトリウム漏れでもんじゅが廃炉に追い込まれました。国民の総意とは言え日本の原子力技術がこれで衰退していくかと思うと実に惜まれることです。」

当クラブ会員からは「では原発が安全だと言うなら、なぜ東京の真ん中に原発を作らないのか？莫大な送電設備や送電ロスがあるにもかかわらず、なぜわざわざ東京から遠い福島や新潟に原発を作ったのか？」「北朝鮮のミサイルが飛んできたらどうするんですか？」など、かなり緊張感のある質疑応答も行なわれ、大変充実した移動例会となりました。



6月地区の予定 【ロータリー親睦活動】

(RIレート: \$1=¥110)

	地区主要行事	会場
1~5 (土~水)	RI 国際大会	ドイツ・ハンブルグ
8 (土)	巻 RC 創立 30 周年記念式典	福寿温泉じょんのび館
15 (土)	青少年交換学生 長期受入学生お別れ会	ホテルオークラ新潟
16 (日)	ロータリー財団 学友会総会	ホテルイタリア軒
29 (土)	川瀬/新保年度慰労会	ホテルオークラ新潟

新入会員紹介

RC	氏名	入会日	会社名	役職
五泉	酒井 球一郎	2019. 5. 1	岡三にいがた証券(株)	支店長
高田東	橋本 洋一	2019. 4. 1	社会福祉法人上越老人福祉協会	顧問
高田東	村上 大介	2019. 4. 1	日本生命保険相互会社	営業部長
高田	吉田 進一	2019. 4. 5	上越信用金庫 高田中央支店	支店長
高田	山崎 和昭	2019. 4. 5	(株)北越銀行 高田支店	支店長
新潟東	八百板 希望	2019. 4. 19	(株)日立製作所新潟支店	新潟支店長
長岡	土田 正憲	2019. 4. 23	(株) にいがた事業承継サポート室	代表取締役
三条北	中山 正義	2019. 5. 7	(株)ハートライク	代表取締役
三条北	宮川 雄一郎	2019. 5. 7	(株)YU-SAY PLAN	代表取締役
新潟南	唐澤 直秀	2019. 5. 8	貝楽酒場 たらふくうなり	代表
新潟南	白井 源晃	2019. 5. 15	アサヒビール(株)新潟支社	理事・支社長
新潟田	河合 芳宏	2019. 5. 20	吉田農事(株)	専務取締役

訃報

RC	氏名	ご逝去日	会社名	役職
直江津	田中 弘邦 チャーターメンバー 1998~99 分区代理 1971~1973 年度会長	2019. 4. 11	田中酒造(株)	代表取締役
高田	大島 精次 1994-1995 年度ガバナー	2019. 4. 19	上越ケーブルビジョン(株)	相談役
白根	風間 柁由	2019. 4. 6	(有)白根中央自動車学校	会長
新潟西	神初 周吉 2015-16 年度会長	2019. 5. 5	NPO法人 あさひの家	理事長

心よりご冥福をお祈りいたします。

第2560地区 2018-19年度4月末 会員数および出席報告

R C	例会数	出席率	会員数			
			2018年7月1日	4月末会員数	うち女性	増減
第1分区(9クラブ)	4	84.91	375	389	38	14
新発田	4	94.05	95	93	0	-2
村上	4	90.28	37	37	9	0
水原	3	90.24	27	30	1	3
中条	4	90.94	36	39	3	3
新発田城南	4	72.49	43	49	4	6
豊栄	4	89.13	24	23	3	-1
新発田中央	4	74.24	49	53	5	4
中条胎内	4	80.41	37	38	7	1
村上岩船	4	82.41	27	27	6	0
第2分区(9クラブ)	4	79.84	437	443	22	6
新潟	4	83.13	86	90	2	4
新潟東	3	81.44	57	55	6	-2
新潟南	4	86.71	104	103	3	-1
佐渡	4	88.50	7	7	0	0
新潟西	4	78.85	39	41	1	2
佐渡南	4	92.16	41	42	5	1
新潟北	4	57.82	40	41	0	1
新潟中央	4	72.92	25	24	0	-1
新潟万代	4	77.03	38	40	5	2
第3分区(6クラブ)	4	76.87	117	111	4	-6
新津	4	73.75	18	19	0	1
村松	4	81.25	9	8	0	-1
五泉	4	72.50	13	11	1	-2
白根	4	82.03	37	33	1	-4
新津中央	4	76.67	30	30	1	0
阿賀野川ライン	4	75.00	10	10	1	0
第4分区(11クラブ)	4	73.03	367	377	27	10
三条	4	79.10	56	58	0	2
燕	4	69.63	33	34	2	1
加茂	4	72.40	30	28	5	-2
三条南	4	89.65	48	48	3	0
分水	4	59.12	28	31	3	3
見附	4	70.00	20	20	1	0
吉田	4	83.60	28	31	4	3
三条北	4	78.01	64	60	2	-4
巻	4	72.40	20	25	1	5
田上あじさい	4	53.60	7	7	1	0
三条東	4	75.83	33	35	5	2

R C	例会数	出席率	会員数			
			2018年7月1日	4月末会員数	うち女性	増減
第5分区(7クラブ)	4	84.50	316	318	24	2
長岡	4	87.84	45	50	3	5
柏崎	4	80.26	43	43	0	0
長岡東	4	78.80	67	64	4	-3
柏崎東	4	82.14	48	47	4	-1
栃尾	4	86.75	22	23	0	1
長岡西	4	82.14	56	55	5	-1
柏崎中央	4	93.57	35	36	8	1
第6分区(6クラブ)	4	79.01	149	145	9	-4
十日町	4	90.83	33	30	2	-3
小千谷	4	72.42	33	33	3	0
雪国魚沼	4	70.60	27	27	2	0
十日町北	3	79.71	22	23	1	1
津南	4	82.69	27	26	1	-1
越後魚沼	3	77.78	7	6	0	-1
第7分区(8クラブ)	4	88.72	330	330	21	0
高田	4	97.62	65	63	0	-2
直江津	4	81.32	61	65	5	4
新井	4	86.72	30	33	2	3
糸魚川	3	95.82	41	40	3	-1
高田東	4	90.54	37	37	2	0
糸魚川中央	3	78.13	36	35	0	-1
頸北	3	97.20	15	15	1	0
越後春日山	4	82.42	45	42	8	-3

クラブ数	56	クラブ
7月1日 会員数	2,091	人
4月末 会員数	2,113	人
女性会員数	145	人
純増減会員数	22	人
当月平均出席率	80.76	%

※先月号の訂正
 3月末日会員数
 雪国魚沼RC (26名⇒27名)
 2560地区合計 (2,100名⇒2,101名)





第3ゾーンでは2018年11月から19年3月にかけて、GETS・国際協議会ご参加のお忙しい中、ガバナーエレクトの皆様方に「現在の地区の“地区・クラブの戦略計画委員会(ビジョン委員会)の設置状況”“地区・クラブの戦略計画(ビジョン)立案状況”などについてのアンケート調査を行いました。その概要については4月のRIZ1・2・3ゾーン会員基盤向上セミナーでお話を致したところです。地区戦略計画委員会は、Z3内の11地区中10地区が既に設置されています。未だの1地区についても現在設立に向け検討を重ねているようです。設立している10地区のうち8地区が活動を開始している、ことです。

クラブ戦略計画委員会につきましても、9地区からデータをお寄せ戴きました。最も多い地区では88%のクラブが委員会を設けています。60%台が2地区、30~40%台が3地区、20%台が2地区、0%が1地区、不明が2地区でした。地区ビジョン(地区中長期計画)を策定している地区は11地区中6地区、検討中が2地区、未決定が3地区あります。クラブに中長期計画を策定して戴くためにも地区が率先して手本を示す必要があるでしょう。

クラブビジョン(中長期計画)を策定している地区内クラブの76%を筆頭に、58、55、38%が2地区、33、30、20%という結果でした。未確認が2地区ございました。各地区が65~70%台に乗せて戴くように希望を致します。

クラブに明確な目標があれば活動計画や方向性を決めることができると考えます。目標策定のためには、これまでの活動状況、会員の関心、目標達成に必要な人材や資金を検討する必要があります。そのためには「クラブの強み」「クラブの弱点」などの内部調査が必要でしょう。それに加えクラブを取り巻く状況、或いは奉仕活動の受益者の調査などの外部因子の調査も必要でしょう。それにより地区・クラブの3~5年後に向けた目標・ビジョンが設定できるのです。そして、ビジョン策定後においては、定期的な検証をする事を決して忘れないことです。検証がないとこのビジョンは頓挫する可能性が十分に考えられます。ビジョン=戦略計画があるクラブは、会員の満足度が高く、ロータリーに対する思い入れも強く、それがより高い会員維持率に繋がるとも言われています。

自らの地区、自らのクラブが未来に向け発展し続けるために自らの背丈に合ったビジョンを策定し、それに向け会員一同が結束されることをお願い申し上げます。

第3ゾーンロータリーコーディネーター 高島 凱夫 (大阪中之島RC)

変化を受け入れる

RI理事会は2017年6月新しいビジョンを採択し、2018年6月の理事会と管理委員会において、新しい戦略計画を承認されました。この計画は2019年7月1日からスタートします。RI会長のテーマは2017-18年度イアンH・S・ライズリー会長の「ロータリー:変化をもたらす」、2018-19年度バリー・ラシン会長の「インスピレーションになろう」、そして、2019-20年マーク・ダニエル・マローニー会長の「ロータリーは世界をつなぐ」となっています。それぞれの会長年度において、新しいビジョンに向けてRI戦略計画を推進されていることがわかります。新しい戦略計画の柱は、ロータリーをさらに明るい未来へ導くために革新性と柔軟性を駆使することです。ロータリーは年々変化しながら発展しつつあります。地区やクラブにおける戦略計画の進捗状況はどうでしょうか。

ロータリー公共イメージコーディネーターの目的は、ロータリー内外でロータリアンを「世界を変える行動人」として描き出す影響力の強いストーリーを特定し、効果的に発信する能力をクラブと地区が強化するのを援助することで、ロータリー戦略計画を積極的に促進することです。革新性には、変革を起こすテクノロジーもあります。これからのロータリーにはICTやネットワークの広がりが必要不可欠ものになります。そのために、My Rotaryのロータリークラブ・セントラルやブランドリソースセンター、ラーニングセンターなどの充実が図られていますが、My Rotaryへの登録率の低迷は重要な課題となります。

ロータリーの会員がロータリーやクラブについてどう語るかによって、ロータリーとその活動や基本理念に対する市民の認識が形づくられます。しっかりとした公共イメージが築かれれば、地域社会や世界の課題に果敢に取り組む「行動人」としてのロータリアンとしての姿を、全世界に一貫したかたちで、地域社会に知ってもらうことができます。

これからは、ロータリーの公共イメージを向上させるために、クラブがマスメディアや広報などを利用してロータリーの奉仕プロジェクトのストーリーを地域の市民に「世界を変える行動人」として伝えることが大切です。また、ソーシャルメディアやMy Rotaryのロータリーショーケースなどを活用することによって、「ロータリーは世界をつなぐ」を実現することになります。

次期第3ゾーンロータリー公共イメージコーディネーター 山下 皓三 (鹿児島西RC)



台湾の学友、栄誉ある賞に輝く



【日経アジア賞】台湾海洋大学終身教授の廖一久さん（1965-68／田原RC）が、第24回日経アジア賞（科学技術部門）を受賞しました。同賞は、日本経済新聞社が新聞創刊120周年を記念して1996年に創設したもので、経済、科学技術、文化・社会の3部門でアジアの発展と繁栄に貢献した人々を



たたえる目的で、各部門1人または1団体を毎年表彰。今回で24回目となります。

「エビ養殖の父」として知られる廖さんは、平成26年度外国人叙勲において旭日中綬章を受章。最近のニュースとして、台湾の「廖一久院士之友會」（廖一久院士の友の会）では、博物館を設立、その建設費を募集中とのことです。今回の表彰式は、来る5月29日に東京の帝国ホテルにて行われます。

栄えある受賞、おめでとうございます！

廖一久さんからのメッセージ

今回、第24回日経アジア賞・科学技術部門に選ばれたことは、私が貴国に留学し、学んだ科学技術を母国台湾の水産養殖産業に貢献したこと、およびアジア各国に息長く大きな貢献を続けている点が強調されたことだと思います。留学中、米山奨学生に選ばれたことが大きな契機だと思います。2018年、ロータリー米山記念奨学会財団設立50周年記念式典にて、19,808人（当時）の米山学友代表としてご挨拶させていただいたことも大事なことだと思います。私の成長段階において多くの恩師のご鞭撻、友人達および米山の皆様の励ましを忘れることは出来ません。そして今日まで私を育て、暖かく見守ってくれた両親、家族、親戚に、心から感謝いたします。



【経済省国家産業革新賞（台湾）】

台湾・経済省による第6回国家産業革新賞（原文：國家産業創新獎）の授賞式が4月10日に行われ、国立政治大学商学研究科の教授を務める米山学友、呉安妮さん（東京三鷹RC）が女性賞を受賞、陳建仁副総統からトロフィーが授与されました。

同賞は台湾産業界のオスカーとして知られ、産業界に甚大な貢献をした者に贈られる最高の栄誉です。呉さんは33年にわたって新管理会計システム「AVM(Activity Value Management)」の

理論研究と実践検証を重ね、台湾における新管理会計制度を開発。このAVMを導入し、呉さんがコンサルティングをした企業では収益が大幅にアップしているとのことです。呉さんは、台湾米山学友会の推薦で来日し（海外学友会推薦奨学金：SY-A奨学金）、2003年7月から翌年2月末まで一橋大学で研究活動を行う期間、米山奨学生となりました。「台湾に経済的奇跡を起こしたい。AVMでより多くの台湾企業を助け、人材を育て、国に貢献したい」と、呉さんは語っています。

寄付金速報 — 残り2カ月、さらなる支援を —

4月までの寄付金は前年同期と比べて2.1%減（普通寄付金：0.5%減、特別寄付金：2.9%減）約2,650万円の減少となりました。

10連休という長いGWを控えた影響もあつてか、前月よりも減少幅が広がり、また、直近5年間の同期累計平均額と比較しても、今月の累計額は約230万円下回る結果となりました。

今年度も残すところ2カ月。ロータリアンの皆様の変わらぬご支援に、厚く御礼申し上げます。なお、今年度（半期ごとの納入クラブは後期分）の普通寄付金をまだ送金していないクラブがありましたら、お早目にお送り下さいますようお願い申し上げます。

米山学友が絵画大賞を受賞 — 上野の森美術館大賞展 —

米山学友の張媛媛さん（2018-19／東京江北RC）が「第37回 上野の森美術館大賞展」で絵画大賞を受賞しました。

同展は、素材の違いや抽象・具象といった既成の尺度にとらわれず、個性豊かな作家を顕彰する全国公募の展覧会で、今回は入選作品142点（応募は843点）の中から、張さんの作品《トト曼荼羅》（エンカウステイク・岩絵具）が最高賞の絵画大賞に選ばれました。

この作品は、古代ローマに紀元を持つエンカウステイク（焼き付けた蜜蝋）技法と中国古来の遠近法を用い

つつ現代の要素を取り入れたもので、審査にあたった委員からは「描かれた魚のこの呑気で楽しげな表情は他にはないもの」「画肌は日本画の古画のような風合いで、僅かな色彩の岩絵具



のみで極力薄く描き切っているところに魅力がある」等、高い評価を受けました。

張さんはこの3月に東京藝術大学大学院を卒業。「米山奨学生としてロータリアンの方々と接し、頑張る力と沢山のエネルギーをいただいた。米山奨学金がなければ、この作品は完成しえなかったと思っています」と、真剣なまなざしで感謝を述べました。

上野での展示は5月8日で終了しましたが、巡回展として京都文化博物館で6月18日

（火）～23日（日）まで展示されます。今回

の大賞受賞により、2021年に個展を開催することも決定したそうです。今後の活躍が期待される若い作家に、今後も声援をよろしくお願い致します。

授賞式（中央が張さん）にて、東京江北RC会長・カウンセラーご夫妻、東京学友会梁理事長、横浜国大教授と。

博士号取得状況 — ご報告お待ちしております —

2018学年度（2018年4月～2019年3月）に博士号を取得した奨学生・学友は35人、これまでの累計では3,711人となりました（5月10日現在）。

米山記念奨学会では、博士号を取得した奨学生・学友に、お祝いの腕時計をお贈りしています（奨学期間終了後の取得でもOK!）。名前入りの、世界にただ一つの腕時計となっており、大変好評です。博士号を取得した奨学生・学友の皆さんは、米山事務局に報告してください。

- お届け先は、原則として世話クラブです
- 完成まで約2週間かかります

申請方法

「学位記の写真」が「学位取得証明書」を世話クラブ経由で米山奨学会へFAXまたはメールでお送りください。

（FAX：03-3578-8281／Eメール：scholars@rotary-yoneyama.or.jp）



ぜひ世話クラブの例会で贈呈を！

文字盤の裏に
お名前が入ります

